

**平成 20 年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	筑波大学
プログラムの名称	共創的コミュニティ形成による学生支援 －学生・教職員が一体となった新たな自主的活動の創生－
プログラム担当者	腰塚 武志
<p>(プログラムの概要)</p> <p>本プログラムは学生の全人格的な成長という目的を達成するために、学生・教員・職員のすべてを大学の人的資源と捉え、そのネットワークを土台として学生の主体的で多様な活動を大規模に創出させる新機軸の学生支援プログラムである。</p> <p>この仕組みの全体を「つくばアクションプロジェクト」と名づけ、そのなかで、潜在力を持ちながらも停滞感を抱いている〈中間層〉の学生を含め、あらゆる学生の自主性と社会性の育成を図る。具体的には、人材データベースを構築して学生および教職員各人の特技や関心について検索可能にし、これを活用してメンバーを募りながら、学生自身の発案による多彩な企画を実現したり、また教職員が提案した企画に学生の参加を促す。</p> <p>学生と教職員が一体となって作り出すこの共創的コミュニティにおける流動的でアクティブな諸活動の蓄積によって、現代社会が必要とする、創造性とコミュニケーション力を備えた人材を養成する。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>筑波大学においては、学生支援に関する目標等に基づき、学生支援の取組を具体的かつ組織的に実施されており、その結果は、学生生活実態調査、卒業時及び卒業後 20 年アンケート、さらに就職先アンケートまで多方面から幅広く学生の意向を反映できるシステムを確立され、大きな成果を上げていると言えます。</p> <p>また、今回申請のあった「共創的コミュニティ形成による学生支援」の取組は、学生の多種多様な自発的活動（T-ACT）を促進させて学生の人間力を育成するという支援プログラムであり、学生の立案に基づいたT-ACTアクションと教職員・学生の支援組織による立案に学生が参加するT-ACTプランから構成され、両者が補完的な効果を発揮しながら、このプログラムの両輪として機能するというものです。これらはそれぞれの支援のプロセスが明確であり、他に見られない工夫ある取組であると言えます。</p> <p>特に、平均群・消極群（中間層）からなる学生の満足感・充実感をより育むことができる取組であり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	東京外国語大学
プログラムの名称	e-アラムナイ協働による学生留学支援
プログラム担当者	小林 二男
<p>(プログラムの概要)</p> <p>本取組は、本学同窓会組織が世界各地に有する海外支部の潜在的な言語的、文化的及び人的資源を発掘し組織化することで、本学卒業生の集合知を学生支援力とし、学生の留学前や留学中、更に卒業後のキャリア支援をも視野に入れた支援体制を構築するものである。具体的には、SNS（コミュニティ型の情報交換システム）を活用した支援基盤体制を整備し、言語と地域を軸とした電子支援コミュニティ（e-アラムナイ）を組織する。e-アラムナイにおいて学生の相談や交流、情報交換を活発化させ、学生の不安を解消し、意識と意欲を高めることで、良好な留学環境づくりを支援する。従来の学内組織が実施する学生支援とは異なり、海外に居住する本学卒業生が関わり、留学先の選択や準備に関して適切な助言を行う他、留学中の学習・生活も学内組織と協働して支援する。更に卒業生と在校生の交流の促進により、卒業後のキャリア発達にも好影響が期待される。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>東京外国語大学の学生支援は、外国語大学という特色を生かす理念や目標に基づいたものであり、適切なニーズ把握による具体的で組織的な取組が実施され、教育・研究活動とも関連づく成果を上げています。</p> <p>また、今回申請のあった「e-アラムナイ協働による学生留学支援」の取組は、留学する学生が直面する様々な不安やトラブルの解消のためにSNSを利用し、海外の卒業生のネットワークと連携して支援しようとするもので、他に見られない工夫ある取組であると言えます。</p> <p>特に、大学が卒業生の集合知を生かして学生を多面的に支援する取組は、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	お茶の水女子大学
プログラムの名称	「出る杭」を育てる －企業で女性が輝くための学生支援－
プログラム担当者	三浦 徹
<p>(プログラムの概要)</p> <p>指導的地位に女性が占める割合を「2020年までに30%」にする、という目標にむけて、20年4月、内閣府は「女性の参画加速プログラム」を決定した。本プログラムは女性の指導的地位への進出を阻む壁を突破するための学生支援を学外との連携によって実行する。</p> <p>本プログラムは、大学入学後の早い時期から女性のライフスタイルを意識させることにより、企業への就職、さらに管理職への昇進をめざす学生への早期支援を行う。①OG就活(就職活動)ネットワークと②就職アドバイザーによる企業と学生のマッチングを行い、女性のキャリアパスのモデルを築く。③働く力の証明となる「就活パスポート」を大学が発行し、④企業とタイアップしてキャリア・セミナーを開講して働き続ける力、さらに管理職に必要な意識と実行力を養成する。これらにより、将来、指導的な地位で活躍する活力ある女性(出る杭)を社会に送り出す。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>お茶の水女子大学における学生支援に関する取組は、女子大学としての歴史や伝統を生かしてきめ細やかに配慮された理念や目標に基づいて組織的に実施されており、その結果は、90%を超える就職率や、教員・公務員・研究者として優れた人材を社会に送り出している実績からも大きな成果を上げていると言えます。</p> <p>今回申請のあった「「出る杭」を育てる」における就職活動ネットワークやキャリアパスモデルを構築するという取組は、社会からの要請にこたえたものであると同時に、キャリアを巡る学生の意識や実態の分析に基づいており、さらには教育や研究不在で不毛に長期化しがちな就活期間や就職後の早期離職への対処法にもつながっていく優れた取組であり、他の大学等の参考になるところも大きいものがあります。</p> <p>特に、就活パスの発行は、就職に不安を抱きやすい学生が取り組みやすく利用しやすい提案になっており、大学が就職活動を後押しする具体的な形としてその効果が期待されるものであり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	富山大学
プログラムの名称	富大流人生設計支援プログラム －『14歳の挑戦』と連携する長期循環型インターンシップモデル－
プログラム担当者	小助川 貞次
<p>(プログラムの概要)</p> <p>富山県では全国に先駆けて県内全中学校が「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を実施しており、本学のインターンシップにも経験学生が参加するようになってきたが、相互に連携・接続していないために生徒・学生の経験値は個人レベルにとどまっていた。</p> <p>本プログラムではインターンシップ参加学生が実習後もICTを利用した自学研修を重ね、『14歳の挑戦』の生徒指導ボランティアとして参加する。大学生は自らの成長を省みる機会を獲得し達成効果を高め、中学生は数年先のキャリアターゲットとなる大学生と触れ合うことで将来像を獲得し、発達段階に応じたキャリア教育の学びの循環として機能する。本プログラムにより、パーソナル支援、修学・学生支援、キャリア開発支援の総合的學生支援体制が推進できるとともに、他の高等教育機関と地域社会に対しても新しいタイプの長期型インターンシップを提示することになり、地域社会全体の活性化に大きく寄与できる。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>富山大学においては、学生支援に関して明確な理念と目標に基づき組織的に実施しており、その取組は、修学・生活支援、パーソナル支援、キャリア開発支援という3つの観点での学生ニーズへの対応であり、大きな成果を上げていると言えます。</p> <p>今回申請のあった「富大流人生設計支援プログラム」の取組は、学生を取り巻く環境の大きな変化に対応し、キャリア開発支援にさらに力を注ぐ必要性から、富山県が行ってきている「14歳の挑戦」事業にも積極的に連携する長期循環型インターンシップモデルを構築しようとするものであり、学生のキャリア開発支援の充実とともに、地域社会全体の活性化にも貢献できる事業と言えます。この取組の中には、中学生（14歳）が企業等での体験をしつつ大学生と触れ合うことと大学生が自らの成長を省みつつインターンシップを経験することにより、それぞれが将来像を思い描く機会となる「学びの循環」にもつながることが期待され、他に見られない工夫ある取組であると言えます。</p> <p>特に、この取組での新しいタイプのインターンシップは、多くの機関・関係者とも連携しながら進めていくことが欠かせませんが、よく連絡調整が進められています。地方の高等教育機関としての利点を生かした取組でもあり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	神戸大学
プログラムの名称	地域に根ざし人に学ぶ共生的人間力 －震災の記憶の伝承と組織的体制の構築による学生活動支援－
プログラム担当者	有木 康雄
<p>(プログラムの概要)</p> <p>阪神・淡路大震災の復興期、本学学生と教職員は地域住民と協同して、地域に貢献する活動を展開してきた。しかし13年が経ち、個々の学生と教職員・地域住民との関係や学びの内容が失われつつある。</p> <p>そのため、本取組により、今まで学生の活動を個々の努力で支援してきた学外者を「共生・減災応援団」として組織する。また、学生同士が刺激し合う「学生コラボセッション」を中心に、神戸や中越の被災者などの震災の記憶について、学生が直接に話を聴く「震災語り場」を展開するなど、学生が地域で主体的に活動する動機づけを行う。</p> <p>さらに、学生が被災地での活動を体験する「地域に根ざし人に学ぶ実践塾」を、経験を積んだ学生と応援団の協力で実施する。</p> <p>以上の取組を通して共生的人間力を身に付けた学生が、地域で新たな活動を創造的に取り組むことを狙う。</p> <p>これらの取組を「協力教職員」が参画する学生ボランティアサポートセンターを新設し、支援・発展させる。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>神戸大学においては、学生支援に関する目標に基づき、学生支援の取組を明確な理念の下に組織的に実施されており、その結果は、学生による震災ボランティア活動などにおいて実証されるように、大きな成果を上げていると言えます。</p> <p>今回申請のあった「地域に根ざし人に学ぶ共生的人間力」における「震災語り場・実践塾」の取組は、これまでの貴学における震災教育の成果を基盤としており、外部人材の積極的な活用によって震災の記憶を継承するといった地域に根ざした活動を、防災や社会貢献の観点だけでなく人材育成に視点を当てた点が今日的であり、社会的なニーズに合致した特色ある取組であると思料されます。</p> <p>特に、「共生的人間力育成」のプログラムにあっては、学生の主体的な活動を系統的に支援する取組であり、これまでボランティア活動に積極的に参画してきた学生への支援だけでなく、意欲はあっても実際に活動を行っていない一般的な学生への支援において効果的であると思料され、受動的な学生への波及効果が見込めるなど、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	香川大学
プログラムの名称	主体性の段階的形成支援システム（CPS） －「支援される学生」から「支援する学生」へ－
プログラム担当者	阿部 文雄
<p>（プログラムの概要）</p> <p>本学では、全学的組織である教育・学生支援機構を、学生の潜在的な力を引き出し、成長を多面的に支援する「学生インキュベーションセンター」として位置づけ、「従来型の学生支援」の概念的領域を拡大した、「新たな学生支援」の概念と理念に基づいた取組を行うことをめざしている。新たな「学生支援」の概念とは、①学生支援活動と教育活動との融合、②学生を支援行為主体に、③学生の地域社会貢献力、④教職員の協働、の4点である。こうした新たな「学生支援」の概念を実現するため、本学では「GPS」というシステムを軸とした取組を行う。GPSとは、ある特定の能力の向上を目指す科目等を受講した学生に一定の認証を行い、実際の学生支援活動に参加した学生にはさらに上級の認証書を授与するというシステムである。このGPSを軸とし、こうした新たな「学生支援」の概念を実現することを通して、学生の主体性の段階的形成を支援したいと考える。</p>	
<p>（選定理由）</p> <p>香川大学においては、「教育・学生支援機構」を設置し、従来からの大学教育センター、キャリア支援センター、生涯学習教育センターなどを一元化し、より充実した学生支援に取り組んでおり成果を上げていると言えます。ニーズの把握と事後の評価、また、FD、SDに関しても積極性と的確性が認められ、今後の課題も明確化されています。</p> <p>また、今回申請のあった「主体性の段階的形成支援システム（CPS）」の取組は、コミュニケーション能力やファシリテーション能力などの向上を目指す講座を受講した学生に一定の認証を行い、さらに、実際の学生支援活動に参加した学生には上級の認定書を授与するというもので、①学生支援活動と教育活動の融合、②学生を支援行為主体にする、③学生の地域社会貢献力アップ、④教職員の協働の4つのねらいがあります。</p> <p>今回の内容は、今までの活動をより発展させるものとして位置づけられ、発想も新しく工夫もされており、有効性、実現可能性も期待でき、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。今後、社会との連携を深めれば、さらに良い取組になると思われれます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	大分大学
プログラムの名称	不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援 ーキャンパス・ソーシャルワーカーとの協働による学生の自己選択能力の 形成支援ー
プログラム担当者	嘉目 克彦
<p>(プログラムの概要)</p> <p>近年の学生には人間関係や学習面の困難を契機として、不登校がちとなって休学や退学に結びつく事例が増えている。こうした学生は学生相談に対しても引きこもることが多く、従来の学生支援のネットワークからはみ出る形になっている。</p> <p>本取組では、「支援チーム」が中心となって策定する段階別の支援計画に基づき、不登校傾向のある学生に対して、「心理・社会的支援」「家族支援」「修学支援」を総合的に展開し、学生の自己選択能力の形成を支援する仕組みを確立する。具体的には、指導教員や臨床心理士等による面談に加え、キャンパス・ソーシャルワーカーによる不登校学生の自助グループと居場所づくり、専門医による家族相談及び家庭訪問、学生チューターと修学アドバイザーによる修学支援を組織的かつ継続的に行い、従来の「待つ」支援からアウトリーチ型支援（「出ていく」及び「出ていくたくなる」）へ取組を進化させるものである。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>大分大学においては、学生支援に対して明確な理念や目標を持ち、現在の取組を実施するための体制は整っており、学内外の連携体制は適切であるとともに、社会的ニーズ、学生ニーズへの対応についてもその把握方法や内容は適切であり、ニーズに応じた適切な取組が実施されていると言えます。</p> <p>また、今回申請のあった「不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援」の取組は、従来の不登校学生に対する「待つ」という支援から、大学・保護者・地域が連携して不登校傾向にある学生のもとへ「出かけて行く」という支援によって、不登校傾向の学生を減少させ、ひいては引きこもり問題の解決方法を見いだそうとするものです。この取組は独自性や有効性が十分認められ、取組の評価体制や方法、活用についても十分考慮されており、実現の可能性が十分に期待できると言えます。</p> <p>特に、本プログラムは、不登校や引きこもり傾向にある学生たちを支援するための新たな取組であり、同じ悩みを抱えている他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	星槎大学
プログラムの名称	SNSを利用した通信制大学での修学支援 —個々に応じた学習支援と学生ネットワーク構築の定着を図る—
プログラム担当者	西永 堅
<p>(プログラムの概要)</p> <p>本プログラムは通信制大学における学びにくさを、学生指導組織とネット社会の融合を促進していくことによって解消していくものである。そのために、在籍する幅広い年齢層の学生同士の交流や、幅広い社会的立場の学生同士の交流、また全国各地に居住する学生のインターネット上の交流を促進し、脱自学自習を目指すものである。</p> <p>Eラーニングプログラム等の陥りがちなシステム優先ゆえの学びにくさを、学生指導組織の積極的関与と学生同士の交流によって学びやすさに変えていくとともに、通信制大学の現状である自学自習による学びにくさを克服していくことを目的とする。</p> <p>具体的には、本学の学生指導組織であるマンツーマン指導員を基礎とした、SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）でのコミュニケーションの円滑化と、システムによる学習課題の共有化、科目情報の共有化を図ることで、学習を継続することの意識付けと、新たな学びへの意欲を喚起していく。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>星槎大学においては、通信制大学という就学形態と、幅広い年齢層の学生が在籍しているといった特質に合わせた学生支援の取組が組織的に行われており、その結果は、単位修得率が60%前後を保っているところから実証されるように、成果が上がっていると言えます。</p> <p>今回申請のあった「SNSを利用した通信制大学での修学支援」の取組における学生ネットワーク構築は、すでに各教員ページとして設置されているSNS機能を拡充して、インターネット上の学生相談・支援体制の充実を目指すものですが、時間や空間の制約を乗り越えた通信制大学ならではの工夫の見られるコミュニケーション促進の取組であると言えます。</p> <p>特に、幅広い年代層の学生がSNSを利用してコミュニティを形成することは、情報の共有化に留まらず、ピア・カウンセリングとしての効果など様々な発展性を備えており、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	千歳科学技術大学
プログラムの名称	自ら成長する教養人の育成支援プログラム ーアナログ・デジタル両手法を活用した成長度に応じた能動的キャリアアップ・人間力涵養システムへの変革ー
プログラム担当者	角田 敦
<p>(プログラムの概要)</p> <p>学生にとって、基礎学力・専門知識に加え、職場や地域社会から求められる社会人基礎力を身につけることが本学の教育理念実現への道程であり、教員及び職員の指導・支援のもとに学生自らが能動的に行動し、真の教養人へと成長していくことが重要である。</p> <p>この課題に対し本申請では、在学年次を問わず学生個人の成長レベルに応じて、学生がキャリアアップを図りつつ様々な角度から自分自身を見つめ、社会ニーズを経験を通して理解する機会を与える。併せて個別対応を中心とした学生ニーズの把握とフォローアップによるフィードバックによって、総合的な人間力涵養に向けて成長する教養人として学生を育成することを目指している。</p> <p>具体的には、教職員との対話や社会人基礎力を養う表現力養成講座等のアナログ的手法と、ICT技術を活用した学習指導・支援（学生総合カルテ）や SNS 同窓会等のデジタル的手法を併せて活用し、より効果的な学生支援システムへと展開する。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>千歳科学技術大学においては、学生支援に関する目標等に基づき、学生支援の取組を5年以上に渡り具体的かつ組織的に実施しており、その結果は、e-Learning や千歳モデルにおいて実証されるように、大きな成果を上げていると言えます。</p> <p>また、今回申請のあった総合的な人間力を備えた教養人に自ら成長する学生を支援する取組は、学生の成長レベルに応じて、アナログ的、デジタル的両面から支援するプログラムになっており、多くの学生のプログラムへの参加が期待できるものと評価されます。また、支援を通じて学生が成長する様を「学生総合カルテ」を作成して個別指導により個々人の状況を的確に判断する環境を整備されることは、上記取組を実質的な効果と結びつけるものであると評価され、全体として他に見られない工夫ある優れた取組であると言えます。</p> <p>さらに、貴学では、従来から自主開発の e-Learning システムや「知識集」などの独自の教育方法を採用して、学習到達度の確認を行う独自の手法を開発し、意欲的に学生の支援策を展開されており、本申請の取組がこれらの教育支援システムと有機的に連携して効果を発揮することが予想され、今後の展開が十分期待される取組であり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	工学院大学
プログラムの名称	いのち・つなぐ・ちから －学生連携型地域防災拠点の構築－
プログラム担当者	佐藤 光史
<p>(プログラムの概要)</p> <p>都心と郊外に拠点をもち理工系大学の特色を生かした学生支援として、学生と地域社会との連携により両キャンパスを地域防災拠点とする総合的な取組である。通常授業との関連の中で、学生が中心となって地域住民と協力して実用的な地域防災マップを作成する。また、災害発生時には学生の安全を確保し、安否確認が速やかにできるシステムを作ると共に、地域住民に必要かつ適確な情報を提供し、避難民の誘導に協力できる体制の構築を目指す。地域住民との連携をとおして、コミュニケーション能力が向上するとともに、社会貢献意識を育む。普通救命講習の受講や、発災対応型防災訓練と新宿駅滞留者対策訓練への参加によって、実践的な災害対応力を身に付けさせる。防災マップ作成や防災システム構築に主体的に関わることにより、問題解決能力を涵養する。本取組によって、学生は安心して大学生活を過ごせるだけでなく、社会的ニーズに対応した人間力が育成される。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>工学院大学においては、都心と郊外に拠点をもち理工系大学であり、その特色を生かした学生支援を行うとともに、学生と地域社会との連携によりキャンパスを地域防災拠点と位置づけた活動を行っています。入学時におけるオリエンテーション・キャンプなどいくつかの実践のもとに、学生の資格取得も含め入学から卒業までを通じて総合的に学生支援策が構築されています。</p> <p>また、今回申請のあった学生連携型地域防災拠点の構築の取組は、授業の中で地域住民と協力して、地域防災マップを作成したり、防災訓練なども行い、実践的な災害対応力を身につけさせるものです。これらの地域住民との連携を通して、コミュニケーション能力を身につけさせ、社会貢献意識も育むことができます。社会貢献を通して社会に必要とされているという意識を持たせることは、人間力・社会人基礎力の養成につながるものと思われます。</p> <p>このプログラムは、都市型キャンパスを持つ他の大学等にとっても、都市防災の教育・研究という観点からも参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	東京女学館大学
プログラムの名称	卒業成長値を高める「10の底力」
プログラム担当者	加藤 千恵
<p>(プログラムの概要)</p> <p>3～4年次中心の就職・進学支援をさらに発展・充実させるために、1年次から学生それぞれの潜在的な能力を向上させていくことを目的として「10の底力」向上プログラムを導入し、一人一人のニーズにあったオーダーメイドのキャリア教育に取り組む。</p> <p>本プログラムは、本学の特色である少人数教育の下で行うことにより、その効果を最大限に活かすことができ、学力偏差値とは異なる隠れた能力や社会性を高めることができる。「10の底力」として、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、国際感覚・異文化理解能力、外国語運用能力等を取り上げ、それぞれの授業・講座において学力とともに、伸ばすことのできる能力を事前に学生に提示する。学生はセメスターごとに各能力の向上度を自己評価し、また教員は学生の評価を行う。卒業までの4年間でそれぞれの能力の開発支援を重点的に行い、学生満足度を高め、また、卒業成長値を高めていく。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>東京女学館大学においては、その教育目標「国際的な視野とリーダーシップ能力を身につけた女性の育成」の実現のために、少人数による双方向型授業を実施して学生に高いコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけさせ、修学支援の成果を上げていると言えます。</p> <p>また、今回申請のあった「卒業成長値を高める「10の底力」」の取組は、「10の底力向上プログラム」を導入して個々の学生の就職・進学支援を充実させることを目的としたものです。このプログラムでは、それぞれの学生が「10の底力」リスト（コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、国際感覚・異文化理解能力等）の中から特に伸ばしたい項目を選び、それに合致する授業を受講することによって個々の底力の育成が可能となるよう企画されています。</p> <p>この取組は、個々の学生を対象にしたオーダーメイド型のキャリア教育支援であり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	女子美術大学
プログラムの名称	美大でのリエゾン型キャリア形成支援の展開 ーキャリアポートフォリオを携えてソーシャルデビューー
プログラム担当者	小倉 文子
<p>(プログラムの概要)</p> <p>本取組は、初等・中等教育機関、企業等と本学のリエゾン（連携）により、学生達がキャリア形成を通し社会・地域等との関係性を育む実践プログラムである。</p> <p>アートツールとして使用する美術大学の作品ファイルを、一般大学の学生の自分史、自己表現のメディアへ汎用化する試みでもある。本学は学生の表現活動の範囲拡大を目的に全学で作品ポートフォリオ制作に取組み、学生自身の社会性獲得を実現する。</p> <p>手始めに、学生の学習履歴を記録しキャリア形成を支援する電子ツールを開発し、実物と電子のキャリアポートフォリオとして学生の人間的成長の足跡を残し、教職員、卒業生、企業人との豊かな交流を促す。</p> <p>またキャリアポートフォリオを学生のピアサポートに用い、卒業後の表現者の揺籃期と、さらにそれ以降を継続支援する卒業生サポートのデータベースとしてアーティストアーカイブスに進化・発展させ、学生が社会へ繋がるリエゾン型キャリア形成支援を展開する。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>女子美術大学においては、学生を大学の中心に位置づけ、教職一体となり、協働して学生の成長と人間としての自立と社会的対応能力を育成するという明確な理念を有しています。</p> <p>そして、キャリア形成を一生涯を通して実現させる人間の生き方として支援するために、「学生キャリア形成推進センター」において組織的に実施し、さらに横の連携を目指しています。その結果は、地方自治体、まちの人々、NPO、企業等地域社会との協働としての作品ポートフォリオ制作により、学生の成長と社会性獲得をもたらしており、支援のプロセスも明確で、特に、美術系の学生を支援するプロセスに他に見られない新規性と独自性のある取組であると言えます。また、個々の学生の作品ポートフォリオを電子ネットワーク上に構築し、学生同士のピアサポートや教員による指導も行っています。</p> <p>さらに、4年間を通じて、小学校や中学校、高等学校でのキャリア支援とピアサポートにより、リエゾン型キャリア形成支援を展開するとともに、卒業後も含めた生涯のキャリア形成を支援する取組であり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	松本大学
プログラムの名称	若者の地元定着につなげる地域活動の支援 －地域まるごとキャンパス「地域づくり考房『ゆめ』」の実践－
プログラム担当者	木村 晴壽
<p>(プログラムの概要)</p> <p>地方の小規模大学として本学は、地元の若者を教育して地元へ還すことを旨とした教育と学生支援を実行してきた。「地域」一般ではなく、地元である長野県あるいは松本市で活動できる人材を養成するための学生支援を目指し、我々は、そのための専門組織「地域づくり考房『ゆめ』」を拠点に学生の地域実践を強力に支援してきた。</p> <p>本プログラムは、地域貢献度が高いと評価された従来の取組の成果を踏まえ、地域活動のなかでも手薄だった分野を開拓することで、責任感のある即戦力に近づくことができるよう、学生を支援するための取組である。</p> <p>この取組は、地域活動支援センターの分室を中心市街地に設け、地域実践を積んだ学生に、そのスタッフとして活動する機会を与えることを大きな特長としている。公共機関と本格的に協働するための最前線基地が分室であり、学生スタッフの配置は、学生自らが支援する側に立つことを通じて責任感を醸成することを狙いとしている。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>松本大学においては、地域に密着した人材養成を大学の理念とし、学生支援もこれに沿ってよく整備され継続的に努力されています。地域との連携とそれを教育に結びつけるための組織(「ゆめ」)を設置され、大きな成果を上げてしていると判断されます。</p> <p>今回申請のあった「若者の地元定着につなげる地域活動の支援」の取組は、「ゆめ」の分室を松本市中心街に新設し、一層の地域連携を図るとともに、分室運営に学生を参画させることにより、学生の自主性を育成しようとされています。これまでの「ゆめ」の活動を発展させる意欲的な取組で、大いにその成果が期待されます。</p> <p>また、この取組は、地域連携の中で学生の教育上の支援を行う優れた取組と言えます。さらに、地域と密着した地方大学の取組のモデルとしても高く評価できます。この意味からも、他の大学等の参考となる注目すべき取組です。それだけに、今後、地元行政との連携も一層確かなものになっていくことが期待されます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	京都光華女子大学
プログラムの名称	学生個人を大切にした総合的支援の推進 －エンrollment・マネジメントと個別対応教育モデルの実践的融合－
プログラム担当者	金 明秀
<p>(プログラムの概要)</p> <p>本学では、個々の学生に対する入学前から卒業後にいたるまでの総合的な学生支援によって不安や疑問を解消するとともに、個別対応教育によってより高度な水準で教育理念と学力の達成を図るというエンrollment・マネジメントを全学体制で実施している。</p> <p>本プログラムは、それをさらに推し進め、①基礎学力、学習意欲、生活実態といった広範な学生評価情報についてのアセスメントの体系化、②特別な配慮を要する学生へのトラッキング・サポート（不登校ゼロ計画）、③ラーニングコミュニティの創出によるピアサポートの充実という3施策を有機的に接合することによって、学生支援と教育モデルの統合度をさらに高め、隙間と取りこぼしのないサポートを実現し、創発的な学生支援効果を増幅させる試みである。</p> <p>プログラム完成時には、全学年のGPAを0.5ポイント改善し、退学率を2%台にまで低下させることを目的とする。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>京都光華女子大学が実施しているエンrollment・マネジメントは、入学前から卒業後に至る総合的な学生支援であり、かつ学生に個別にこたえる教育を具現化した方法であることは明らかです。</p> <p>また、組織横断的な特徴を有し、教職員の資質向上を組み込んだ点、さらには退学率の引き下げという実績に結びついた点も他の大学等の参考となる取組と考えられます。</p> <p>一方、今回申請のあった「学生個人を大切にした総合的支援の推進」の取組は、現在の取組との相乗効果が期待できることから、「隙間と取りこぼしのないサポート」として評価できます。</p> <p>特に、学生の成長や変化について教職員が協力して把握するとともに、学生自身の診断ツールとしても活用できることから、共同学習環境の形成といった手法と相まって、その独自性と有効性の点で期待できる内容となっています。</p> <p>さらに、新たな取組が貴学の教育改革を大きく前進させるという明確な目的意識に支えられていること、そして何よりも不登校率の減少やGPA改善、退学率の減少等、具体的な数値を掲げて取り組もうとしている点が評価でき、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	京都産業大学
プログラムの名称	京産大発ファシリテータマインドの風 ーファシリテーションの定着による学生支援改革ー
プログラム担当者	鬼塚 哲郎
<p>(プログラムの概要)</p> <p>本取組は、低単位・低意欲学生層向けキャリア形成支援科目においてこれまで蓄積された知見を学生支援領域に拡大し、中間層の学生をも巻き込んだ個の活性化と自律を支援する。キャリア形成支援科目での知見は、対象学生層の細分化されたニーズ、授業運営でのファシリテーションの有効性、科目運営における PDCA サイクルの有効性、の三点に集約されるが、これらをふまえた学生支援事業を下支えするための場「F工房」を開設し、ファシリテーション導入による既存の取組改善、FD/SD 関連ワークショップの立案・開催・評価、および学生による学生のためのツール開発、を展開していく。「F工房」におけるプログラム開発のプロセス、開発されたプログラムが対象学生層に向けて実施されるプロセスの双方においてファシリテーション・スキルが適用されるため、同スキルの定着が学生支援領域において加速され、対象学生層における個の活性化と自律が期待される。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>京都産業大学においては、創立以来「人づくり」に専心され、入学から卒業、卒業後までを教職員が協働で一人ひとりの学生を人間として知的、人格的に高められるよう地道に学生支援への努力をしてこられました。特に、中長期計画「グランドデザイン」ではセクショナリズムを廃し、一拠点大学を生かしたキャリア形成支援の充実、ファシリテータマインドと学生の主体的参加体制の構築等の学生支援が行われ、これらは他の大学等の参考となるものと評価いたします。</p> <p>今回申請のあった「京産大発ファシリテータマインドの風」の取組は、これまでの蓄積を土台とし、低単位・低意欲学生層に中間層を含む学生の視点から考えられており、今後はこれらの受講率を高める工夫と全学生への相乗効果が出ることを期待いたします。さらに、今後プログラムが着実に展開され、恒常的にF工房が機能し、ファシリテーションが活用されることにより有効性が明確になることも重ねて期待いたします。</p> <p>入学から卒業までの「キャリアステップ」を意識した4年間を通じての総合的で充実した学生支援は、社会的ニーズに対応したものであり、創意工夫された企画は他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成 20 年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	産業医科大学
プログラムの名称	大学と企業の連携で育成する統合学生支援 －働く人々が求める全人格的な「将来の産業医」の養成を目指して－
プログラム担当者	上田 陽一
<p>(プログラムの概要)</p> <p>産業医科大学医学部は、産業医学の振興と働く人々の健康を支える優れた産業医の養成のために設立されて今年で 30 周年を迎える。今回、開学以来実施してきた学生支援体制を見直し、大学と企業、ひいては地域との力をあわせた新たな統合学生支援体制を構築することによって、広い視野と豊かな人間性をもった将来の産業医を養成することを目的とする。</p> <p>具体的には、①新入生スタータープラン：オリエンテーションおよび進路指導の連携、②産学連携メンター制度：指導教員に加えて卒業生産業医、産業医経験教員や上級生をメンターとする多重指導體制の確立、③インテリジェント・キャンパス 21 連携学生支援：学内無線 LAN を用いた学生支援 IT センターの設立、④産業医を目指す女子医学生支援：女子医学生の会発足と卒業生女医の会（アリスの会）との連携、⑤働く人々の健康大学宣言：学生と企業と地域が一体となった健康増進活動の支援、を実施する。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>産業医科大学においては、学生支援に関する目標等に基づき、学生支援の取組を長期に渡り具体的かつ組織的に実施しており、その結果は、「産業医学現場実習」や「指導教員制度」において実証されるように、大きな成果を上げていると言えます。</p> <p>今回申請のあった「大学と企業の連携で育成する統合学生支援」の取組は、新入生の段階から産業医としてのキャリアを具体的にイメージできる機会を設け、また、卒業生産業医を通して産学連携を実現することによって優れた産業医を養成しようとするもので、貴学の特徴に配慮した優れた取組です。また、女子学生の支援、卒業生の支援も意義ある取組であると評価できます。</p> <p>全体としてそれぞれの支援のプロセスが明確であり、他に見られない工夫ある取組であり、職業に直結した一般大学等の学生支援の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	上智短期大学
プログラムの名称	サービ斯拉ーニングによる学生支援の総合化 －ライフデザインと社会人基礎力の養成－
プログラム担当者	高野 敏樹
<p>(プログラムの概要)</p> <p>本取組はサービ斯拉ーニングを通して「学内の学び」と「学外の学び」を有機的に統合し、異文化間・異世代間のコミュニケーションを促進することで社会人基礎力の涵養を目指した総合的な学生支援プログラムを展開するものである。学力・社会的関心・進路選択について多様化する学生のニーズと、地域社会や時代のニーズの多層化に応えるために「サービ斯拉ーニングセンター」を設置して学生支援の総合化を図る。本学の教育理念である「キリスト教ヒューマニズム」「国際性」「言語教育」に則った地域連携活動への的確な指導を通して一人ひとりの学生の全人的成長を促し、正課の授業と連携して学びの深化を図る。新たに「学生カルテ」を整備して学内外の活動支援を統合化し、教職員・地域行政機関・NPO・父母・卒業生の連携協力体制の下で、修学支援、ボランティア支援、キャリア・ライフデザイン支援等を展開し、一人ひとりの学生の夢の実現を応援する。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>上智短期大学においては、学生支援に対する理念である「キリスト教ヒューマニズム」、「国際性」、「言語教育」が具体的であり、組織的に無理のない形で実際の学生支援が実施されています。また、社会的ニーズ及び学生のニーズのとらえ方の現実把握が的確であり、ニーズへの対応が学生支援の理念と合致しています。</p> <p>今回申請のあった「サービ斯拉ーニングによる学生支援の総合化」の取組は、「サービ斯拉ーニングセンター」を新設し、学習支援（ラーニング）と社会奉仕活動（サービス）を一体化するもので、両者が無理なく有機的に結びつく取組であると言えます。</p> <p>理念に裏づけされた学生支援、修学支援、就職支援と新しい取組の体制がよくつながっており、顕著な学生支援の効果が期待されるとともに、他の大学等においても十分展開し得る内容の優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	松本大学松商短期大学部
プログラムの名称	元気なキャンパスをつくり出す仕掛けの創出 － “治療” から “予防” へのパラダイム転換－
プログラム担当者	住吉 廣行
<p>(プログラムの概要)</p> <p>経済、精神、勉学面など最近の学生が抱える問題は多い。本学も入学前から卒業までの一貫した学生支援システムを構築し、手厚く対応している。</p> <p>しかし、現に生じている問題への“治療”的対応だけでは追いつかず、根源的な解決策としての“予防”的対応強化の必要性を感じていた。これまでの萌芽的試みに対し、理論的な裏付けを行い、もっと自信を持って推進したいとの考えが本申請の背景にある。</p> <p>大学運営への学生参画で、元気なキャンパスという雰囲気醸し出し、その中で学生が自力で自らの課題を解決する仕組みを創出したい。</p> <p>そのため、①学生を側面支援する職員のSD活動、②教職員の連携強化を図る。③湘北短大との相互点検・評価に付随した学生間交流での武者修行、④大学と一体となって進める社会体験活動で、コミュニケーション、プレゼンテーション能力等の社会的スキルを涵養する。こうした人材の地元定着は、地域の地盤沈下防止に役立つであろう。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>松本大学松商短期大学部においては、学生支援に関する目標等に基づき、学生支援の取組を6年以上に渡り具体的かつ組織的に実施しており、その結果は学友会活動の活性化や湘北短期大学との相互点検・評価活動において実証されるように、大きな成果を上げていると言えます。</p> <p>また、今回申請のあった「元気なキャンパスをつくり出す仕掛けの創出」の取組は、生じた問題への治療的対応だけでなく、予防的対応を強化するというものであり、そのために学生に負荷をかけるという発想は、他に見られない工夫ある取組であると言えます。さらに、学生を大学運営に参画させ、意欲を醸成するという点も自主性を養う上で有効であると言えます。</p> <p>特に、教職員間の連携強化と学生カルテ・データBANKの構築は、学生支援のための土台づくりに重きを置き、支援システムの基盤強化を目指すものであり、教職員の連携で学生への即時対応を可能にすることが見込める取組であり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	大阪城南女子短期大学
プログラムの名称	女子学生のための地域活動力育成プログラム －ミニコミ誌の取材・編集をととしたコミュニケーション教育－
プログラム担当者	小林 孔
<p>(プログラムの概要)</p> <p>コミュニケーション能力、問題解決力、プレゼンテーション能力の育成は、学生支援に欠かせない教育現場での今日的課題である。本学では、この課題に対して、独自に分析した地域「城南エリア」を用い、ここを取材源とする学生主体のミニコミ誌「大阪ほっとコミ」を発信する。</p> <p>そのミニコミ誌の取材・編集・発行のために、全学に基礎科目として「大阪の人と文化Ⅰ・Ⅱ」を設置し、1年次では他の科目と連動させ、学生への動機づけと模擬演習を行い、2年次で女性の視点による実際の取材と編集を行う段階的なカリキュラム編成をした。なお、カリキュラムの運営およびミニコミ誌の編集に関しては、学内に学生支援委員会をおき、各学科の学生支援と全体調整の窓口とする。</p> <p>地域に愛着と理解をもち、自分のことばと視点で取材し、情報を発信できる地域活動力を、2年間をととして創り出す対人援助職育成の取組であり、大阪の文化に根ざした教育プロジェクトでもある。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>大阪城南女子短期大学においては、現代の学生の気質を分析した上で、学生支援に必要な内容を明確に設定し、具体的かつ組織的に支援活動を実施しています。その成果は、「現代の礼法」、「日本語コミュニケーション」などの科目設定とそれを学んだ学生が職場で高い評価を受けるといった点などに現れています。</p> <p>今回申請のあった「女子学生のための地域活動力育成プログラム」は、貴学周辺の地域「城南エリア」を取材対象としたミニコミ誌「大阪ほっとコミ」の編集・発行を通じた取組で、学生にとって身近に感じられるものであり、日常活動を通してコミュニケーション力や人間関係力、さらには問題解決力を育む工夫されたおもしろい取組であると言えます。</p> <p>特に、この取組が「大阪の人と文化Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」などの授業科目と結びついて、地域文化の継承・発展をも目論んでいる点は地域性を発揮したもので、他の大学等の参考となる優れた点であると言えます。</p>	

**平成 20 年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	宮崎学園短期大学
プログラムの名称	学生の総合的診断・ケア・サポートシステム
プログラム担当者	宗和 太郎
<p>(プログラムの概要)</p> <p>本プログラムは、建学の精神に基づく「学生のニーズに見合った親切的な教育」を実現する 10 余年にわたる取組の延長上に、新たに、学生に不足するスキルをグループ・プログラム学習で仲間と共に学べるように支援していこうとするものである。</p> <p>まず、社会人としての自立へ向けて、学生生活を送る上で求められるスキルを体系化し、学生生活スキル・スタンダードを作成する。</p> <p>このスタンダードに基づき、学生は入学前から自己診断チェックを行い、課題に挑戦する。入学後は、学級主任のスーパーバイズを受け、学生は自分に不足するスキルに応じて、同じ目標を持つ学生からなるグループ・プログラム学習に、2 年生チューターがついて取り組む。</p> <p>教職員は LAN 上に学生個人カルテ・システムを作り、学生についての情報を書き込み、共有する。そして教育カンファレンスを行い、個々の学生のニーズに即した親切的な教育を推進していく。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>宮崎学園短期大学においては、学生支援に関する目標等に基づき、FD 活動を中心とした多様で重層的な学生支援の取組を、10 年以上に渡り具体的かつ組織的に実施しており、その結果は、平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」に選定されたことや高い就職率、卒業時の満足度などに実証されるように、大きな成果を上げていると言えます。常に内容の見直し、組織改革などを継続して実施していることも評価できます。</p> <p>また、今回申請のあった「学生の総合的診断・ケア・サポートシステム」の取組は、近年増加しつつある学習意欲や自立心の低い消極的な学生を質の高い社会人として送り出すための学生支援であり、その内容は、学生生活スキルを項目ごとにスタンダード化し、学生の自己診断を基に、教職員の支援の下で、上級生がチューターとして参加するグループ学習によって弱点克服の方法を学ばせることにあります。それぞれの支援のプロセスが明確であり、他に見られない取組であると言えます。</p> <p>特に学生に対するチューター養成は、それ自体が学生自身に対する支援ともなり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	函館工業高等専門学校
プログラムの名称	携帯を利用した学生インスパイアプログラム －「このままではいけない」と思っている学生たちのために－
プログラム担当者	新田 一夫
<p>(プログラムの概要)</p> <p>今日の閉塞社会の中、人間関係が希薄で無気力な学生は増加し、彼らは自ら声を発することなく、その内面に日々蓄積する問題を抱えながら、ついには心の病などに至る事例も絶えない。一方で本校学生相談室の調査によると「このままではいけない」という思いを潜在的に持つ学生は多く、学生が自らを試す機会を与えるべく、学生相談室とキャリア教育センターが中心となって本プログラムの発想に至った。これは学生に働きかける手段として各自の携帯電話を利用し、各種コンテンツやプログラムを発信し、学生が自らの可能性を試す機会を与えるものである。携帯電話は今日の学生にとって最も身近な媒体であり、手許に届く情報には必ず目を向けるはずである。この取組により、閉塞感にとらわれた学生たちが自ら声をあげることを知り、自己啓発を促すことを目的とする。技術者育成を目的とする高等専門学校として、「たくましさ」を育むための学生支援である。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>函館工業高等専門学校においては、学生支援に関する目標等に基づき、学生支援の取組を具体的かつ組織的に実施しており、その結果は、5年間継続されている学生の意識調査やキャリア教育センターの設置において実証されるように、大きな成果を上げていると言えます。</p> <p>また、今回申請のあった「携帯を利用した学生インスパイアプログラム」による閉塞感にとらわれた学生達の自己啓発を促す取組は、近年の学生間における携帯電話の役割や特性を上手に活用することで、「声をあげない」学生も含め学生全体へ能動的に働きかける点に特色があります。携帯の利用は、特定の科目においてすでに実績を上げていることから、それぞれの支援のプロセスが明確であり、他に見られない工夫ある取組であると言えます。</p> <p>当該学生が潜在的に問題を抱えているとの想定に立ち、早期発見・早期対応を目指す取組であり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	富山工業高等専門学校
プログラムの名称	高専元気UP！遊－友－YOUプロジェクト －新たな憩い・交流・活動空間 KOSEN Cafe の創出による遊－友－YOU の 関係構築と学校生活の活性化－
プログラム担当者	川淵 浩之
<p>(プログラムの概要)</p> <p>近年の本校学生においては学生の小集団化が進み、仲間内以外への無関心や個人主義の傾向が見られ、頼れる人間を学校内に見出せずに長期欠席や退学に至る学生が現れている。この状況で今求められる学生支援は、学生が互いに支え合える友－YOU の関係構築を促すことであり、学生が元気付けられる体験をする機会を積極的に創出することである。</p> <p>本取組はその鍵を遊びと捉え、学生や教職員の憩い・交流・活動空間としてラウンジ KOSEN Cafe を設置し、これを基盤に様々な放課後企画（料理教室、ペット自慢写真展、放課後塾、カウンセラーとの語り等）を学生の自発的な参加の下で展開する。またこれに主体的に協力する学生の育成のため、従来の低学年宿泊研修やリーダー研修の充実を図る。学年・学科を越えた学生、教職員・カウンセラー、同窓会員、技術振興会員等、学生を支える様々な人々が寄り合う空間を創出し学校生活の活性化を図ることが、本取組の目的である。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>富山工業高等専門学校においては、学生支援に対する取組が明確な理念や目標に基づいていません。教職員の目指す学生支援を「夢現教育」と位置づけ、制度・施策面や教育を通じた人的支援面で学生支援を行っており、学生が技術者として自らの力を頼りに生きていくための知力・精神力・社会性を養っていく上で大きな成果を上げていると言えます。</p> <p>また、今回申請のあった「高専元気UP！遊－友－YOUプロジェクト」の取組は、学生が支え合える友－YOU の関係構築を促し、学生や教職員の憩い・交流・活動空間としてのラウンジ KOSEN Cafe を設置し、これを基盤に様々な放課後企画を学生の自発的な参加の下で展開することになります。</p> <p>特に、この Cafe には、学科を越えた学生が集まることになり、それに学生をサポートする教職員、カウンセラー、同窓会員、技術振興会員等も集まる空間として機能する取組であり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

**平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」
選定プログラムの概要及び選定理由**

大学・短大・高専名	明石工業高等専門学校
プログラムの名称	ソーシャルマーケットを利用した学生の育成 ーキャンパスづくりと地域貢献を通じたキャリアアップ支援プログラムー
プログラム担当者	松田 安隆
<p>(プログラムの概要)</p> <p>ソーシャルマーケットを開設することで、学生自らがキャンパス改良、地域貢献プロジェクトに参画し、主体性、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を向上させ、教室内教育と相互補完しキャリアアップを図ることを目的とする。</p> <p>キャンパスづくりにおいては、環境対策（ゴミの減量、再生可能エネルギーの利用、緑化等）、情報発信などのキャンパス改良プロジェクトや学生自ら考案したプロジェクトをソーシャルマーケットに公開し受注する。プロジェクト実施にあたっては教職員と NPO 法人職員がサポートする体制とする。</p> <p>地域貢献では、NPO 法人、地域住民、行政と協働することで、地域から求められているニーズ（中小企業のホームページ作り、ため池の有効活用、街づくり、環境対策、ロボット教室等）を掘起し、学内と同様にプロジェクトを学生が主体的に推進することを基本とするが、教職員・NPO 法人職員と協働してプロジェクトを進めていく。</p>	
<p>(選定理由)</p> <p>明石工業高等専門学校においては、学生支援に関する目標等に基づき、学生支援の取組を着実に実施されています。</p> <p>今回申請のあった「ソーシャルマーケットを利用した学生の育成」の取組は、以下に示す優れた特徴を備えており、「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」として選定するにふさわしいものであり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p> <p>①教育目標「豊かな教養と感性を育てる」と学生支援の理念・目標の結びつきが明確に示されています。②環境保全や河川管理の教育・研究活動を通じて得た実践を下敷きにしており、学生支援プログラムと地域貢献との関連も明確にされています。③教育実践を通じて効果的と判断された方法と理念を学生支援に敷衍しようとする考え方は説得力のあるものになっています。④ボランティア活動を中心に据えた教育は、高等専門学校ならではの特徴的なプログラムであり、ソーシャルマーケットを利用した学生への呼びかけは大いに期待できます。⑤「自分たちの専門知識、技術を活用して様々な取組を行いたい」という学生のニーズをボランティア活動に結びつけるアイデアは、ある程度の「専門知識、技術」を身につけた高学年生には有効だと考えられます。⑥環境・学術分野のボランティア活動に取り組んできた実績を背景にしているだけに、学生支援プログラムとして実現可能性が高いと考えられます。⑦授業として成り立ったものが、学生支援プログラムとして成り立つかどうかは困難な課題であり、貴校が先駆的な実践を通じて示していただけるものと期待します。</p>	